2021年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第529号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

アフガニスタンの大地に希望と命の水を拓いた

中村哲の河川哲学を学ぶ

文・古賀邦雄　古賀河川図書館

中村哲の死

〈薬では飢えや乾きは治せぬと水路を造った中村氏逝く〉(小野瀬　寿)

戦乱の続くアフガニスタンにて医療のかたわら、人を救うには水の確保が必要だと考え、井戸を掘り、カレーズ(地下水路)の復元、灌漑用水路施設を拓いていた中村哲が2019年12月4日、銃撃を受け殺害された。世界の多くの人々が彼の死を悼み涙にくれた。アフガニスタンの大地に希望と命の水を拓いた業績に関し、彼の著書からその河川哲学ついて辿ってみたい。

山田堰と古賀百工との出会い

筑後川中流域における福岡県朝倉市山田に位置する山田堰、筑後川の水をその堰から取水する堀川は、寛政2(1790)年下大庭村(現・朝倉市)の庄屋古賀百工によって改築され、現在も農業用水が送られ、一部の水は堀川に設置された三連水車、二連水車によって揚水されている。

鶴田多多穂著『改訂　山田井堰堀川三百年史』(山田堰土地改良区・1981年)に、堰の特徴として次のように論じている。石積の斜め堰で、越流線を長く取り、水の勢いを上流から徐々に逃し崩壊を防ぎ、かつ効果的に取水口に水を導く。また砂利が溜まって取水ができなくなるので、土砂吐きを設け、土砂吐きの急こう配を勢いよく吐き出す水の力を利用して堰上流に溜まる砂利を排出する。中村哲は、この山田堰の水利システムをアフガニスタンの堰づくりに応用する。さらにクナール河の用水路護岸に、日本古来の蛇篭(ふとん籠)を使い、合わせてふとん籠の上側に柳を植える柳枝工を施工した。柳の根がふとん籠のなかにはりめぐらされて籠のなかの小さな石礫が大きな塊となって護岸が強化されることになる。

アフガニスタンの地勢

アフガニスタンの状況については、東京大学西南ヒンドゥークシュ調査隊編『アフガニスタンの水と社会－1967』(東京大学出版会・1969年)により、次のように追ってみる。

アフガニスタンはユーラシア大陸のほぼ中央にあり、カシワの葉のような形をしている。中央部は高原状で地中海ヒマラヤ造山帯の一部をなし、インド地域とユーラシア内陸低地を分断している。山の多い地勢であるが、北部や南西部に平野が広がる。最も高い地点は標高7492mのノシャック山で、国土の大半は乾燥しており、真水が供給できるところは限られている。気候は大陸性で夏は暑く、乾燥地帯である。乾燥地帯とは蒸発量が降水量を上回る地域を指す。

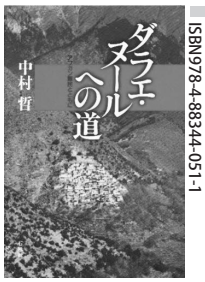
アフガニスタンの沙漠は年間降水量がわずか100mm足らず、しかも年間蒸発量は2000mm～3000mmにも及ぶ。主要産業は農業である。農業が基幹産業であるにもかかわらず耕作されている地域は全土の12%に過ぎない。不耕地が圧倒的に多い。灌漑は天水灌漑、河川(湧水)からの導水、それにカーレズによる灌漑を行っているが、水不足はなかなか解消されない。

医者　井戸を掘る

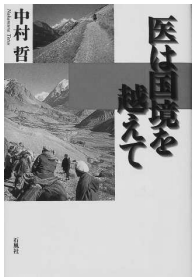
中村哲は、戦乱の続く中でハンセン病などの医療活動を継続しながら、何度もアフガニスタンの大旱魃に遭遇する。大地は干しあがり、感染症が蔓延する体験から、診療所で水の大切さを痛感する。「とにかく生きておれ、病気はあとで治す」の心意気で、まずアフガニスタンの700人を指揮して1000基(最終的に1600基に増加)の井戸を掘り、大旱魃にあえぐ人々を助けた。中村哲著『医者　井戸を掘る－アフガニスタン旱魃との闘い』(石風社・2001年)がある。

医療活動については、中村哲著『ダラエ・ヌールへの道―アフガニスタン難民とともに』(石風社・1993年)、同著『医は国境を越えて』(石風社・

医者井戸を掘る　アフガン旱魃との闘い
中村哲著・石風社刊・税込価格1980円
ISBN978-4-88344-080-1



ダラエ・ヌールへの道　アフガン難民とともに
中村哲著・石風社刊・税込価格2200円
ISBN978-4-88344-051-1



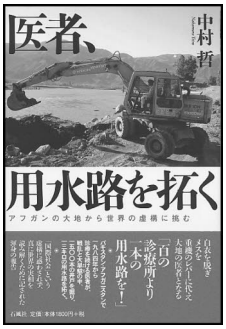
医は国境を越えて
中村哲著・石風社刊・税込価格2200円
ISBN978-4-88344-049-8

☆☆☆～～～～☆～～～～☆☆☆

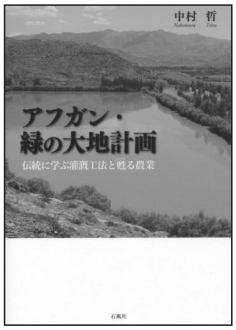
――― ///

1999年)、澤地久枝との対談『人は愛する足り、真心は信ずるに足る－アフガンとの約束』(岩波書店・2010年)がある。

飢えと渇きは薬では治せない。清潔な飲料水と十分な農業生産があれば病の多くは救えるという強い信念のもとに、灌漑用水路づくりに挑む。



医者、用水路を拓く
アフガンの大地から世界の虚構に挑む
中村哲著・石風社刊・税込価格1980円
ISBN978-4-88344-155-6



アフガン・緑の大地計画
伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業
中村哲著・石風社刊・税込価格2530円
ISBN978-4-88344-271-3

マルワリード用水路の建設

中村哲著「医者　用水路を拓く－アフガンの大地から世界の虚構に挑む」(石風社・2007年)は、アフガニスタン・クナール河に斜め堰を造り、全長13km(その後延長された)にわたるマルワリード用水路の建設を記す。この用水路は取水量4・5m3/s～5・5m3/s、灌漑面積約9700ha、分水路延長7・2km、付帯施設(橋・水道橋・遊水地)を設置、水路の土砂防止が施されている。また、環境にも十分に配慮して水路沿いに柳など12・5万本が植樹された。

クナール河は、ヒンドゥ―クシュ山脈の雪解け水が一気に押し寄せてくる荒い河であるが、干天が続くと優しい河に変化する。低予算のため近代的な土木機械を欠く中で、人力に頼り、多くの蛇篭などの施工によって悪戦苦闘の4年の歳月を経て完成した。今では沙漠地帯に緑が拡がっている。

福岡県大牟田市に住む中村哲は、用水路施工中に帰国した際は、何度も筑後川における山田堰を訪れ、熊本県の白川、緑川を歩き、加藤清正の水制禦システムである石刎、鼻ぐり井手工法を学んでいる。

天、共に在り

中村哲は、アフガニスタンの大旱魃に伴い、井戸を掘り、農業用水路を造り、アフガニスタンの人々に希望と命の水を送り続けた。その苦闘の過程を綴った中村哲著『天、共に在り－アフガニスタン三十年の闘い』(NHK出版・2013年)がある。

1986年～2001年命の水を求めて(内戦下の診療所開設、大旱魃と空襲のはざまで)、2002年～2008年緑の大地をつくる(農村の復活を目指して、真珠の水－用水路の建設－、基地病院撤収と邦人引き上げ、ガンベリ沙漠を目指せ)、2009年～沙漠に訪れた奇跡(大地の恵み－用水路の開通－、天、一切を流す－大洪水の教訓－)の構成となっている。

熱砂のガンベリ沙漠は人を寄せ付けない。2009年8月3日この荒野で働く400人のアフガニスタンの人が最後の気力を振り絞って、マルワリード用水路全長約24kmを突貫工事で開通させ、水が流れ出した。その瞬間、足かけ7年にわたる汗の結晶が実を結び、3000haの農地が回復した。「神は偉大なり!」。期せずして歓声と拍手がおこり、現場は興奮の渦に巻き込まれた。そして作物の収穫が可能となってくると、中村哲にはにかんだ様な笑顔が浮かんでくる。

この書の終章に中村哲の信条が論じられている。

「**信頼は一朝にして築かれるものではない。利害を超え、忍耐を重ね、裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人々の心に触れる。それは、武力以上に強固な安全を提供してくれ、人々を動かすことができる。私たちにとって、平和とは理念でなく、現実の力なのだ。**」

緑の大地計画

中村哲著『アフガン・緑の大地計画－伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業』(石風)社・2017年)では、日本における治水・利水の河川伝統工法が現地で多く用いられていることがわかる。

日本とアフガニスタンの河川と流域の類似性について、①急流河川が多く、夏冬の水位差が著しいこと、②山間部の山麓や小さな平野に田畑があり、狭い土地での集約的な農業がなされていることを指摘する。したがって、取水と灌漑方法にある種の類似性があり、近代工法が不可能なアフガンの農村では、維持・補修を自ら行うことが可能な単純な工法による日本の古い水利施設が役立つという。

資材として、蛇篭工、護岸や石出し水制、柳枝工、剣山、粗朶柵工を施し、河川環境に配慮している。治水対策として、①取水堰の近傍に溢水防止を目的として連続堤防を配置し、堰上流で河道を分割。②取水堰上下流の急流部に浸食防止を目的として連続堤防と高水敷保護の越流型水制を配置。③頻繁に村落を脅かす洪水流侵入地点に植生工を施した連続堤防を配置し、河道のショートカットで流れ方向を変更した。

取水堰(頭首工)は、クナール河土砂流入を防ぐ特徴を持っている。①斜め堰であること。②二重板式取水門。③急傾斜の主幹水路。④沈砂地(送水門、排水門)で構成されている。

さらに、堰の特徴として、①堰の越流幅をできるだけ長くとって通過する越流水深を抑え、堰の単位面積にかかる負荷を減じ、かつ水位変動を最小に抑えている。②河道全面積上げで河床低下を防いでいる。③堰の平面形状を上流側に向けて半楕円形を描くようにとり、越流する流れを河道の中心に集め対岸の影響を防いでいる。④大洪水に対しては通過水量が限界を超えないよう、近傍で河道を分割したり、砂州全体を堰の一部に組み込んだりする工夫がなされている。

アフガン最期の言葉

2019年12月4日凶弾に倒れた中村哲、その功績を後世に伝えるため、絵本『カカ・ムラドーナカムラのおじさん』(ガウワラ原作・双葉社・2020年)、それに中村哲著『希望の一滴－最期の言葉』(西日本新聞社・2020年)

が発行された。

その『希望の一滴－最期の言葉』帯文から引用してみる。

【「もう銃を持たなくていい」食い詰めて兵士となった経験があるアフガン人男性は畑でほほえんだ。戦乱と干ばつ、そして飢餓、治療よりも水と食糧が必要だと、医師中村哲は1600本の井戸を掘り、65万人の命を支える用水路を建設した。砂漠化した大地に緑がよみがえり家族が暖かな食卓を囲む、人間の暮らしが戻った。「平和には戦争以上の力がある」】

真の河川哲学者

高橋裕東大名誉教授は、ミツカン水の文化センター編・発行『水の文化48号』(2014年)で「治水哲学を涵養するもの」と題した文章の中で、土木界の哲学的先達であった直木倫太郎の「技術生活より」から次のような言葉を引用している。

「人あって技術、人格あっての事業であり、その人格の向上を図らないで、独り技術の力のみ欲するのは困難である」。つまり、河川哲学者は河川技術と同時に人格の向上を図る人であるという。

中村哲はアフガニスタンのすべての人から愛された人格者であった。河川技術もまた治水・利水・環境の三つの目的をすべて取り入れ、現場を知悉し、施工法はバランスの良いものであった。さらに今後の用水路の管理方法についても、アフガンの人々が管理できる資材を使って未来に備えていた。

行基や空海などにおいても池づくりの土木事業は利他的な行為であって、その根底には宗教的救済精神が貫かれているが、クリスチャンで医師である中村哲の精神に通じるものがある。

中村哲は、河川技術を知悉し、河川現場を知り尽くし、クワ―ル川に斜め堰など用水路を完成させた。そして中村哲はアフガニスタンの人々の心を一つにまとめる人格者であった。真の河川哲学者である。

〈アフガンの大地に水を引いた日の中村医師の輝く笑顔〉(滝上裕幸)

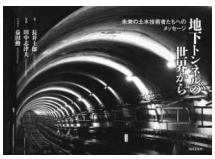
＊

（こが　くにお・古賀河川図書館）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『地下トンネルの世界から －未来の土木技術者たちへのメッセージ』●長井士郎・文/田中志津夫・写真



「土木という言葉からあなたは何を連想するでしょうか」と本書のオビ文が問いかけてきます。無駄な公共事業等を思い浮かべ、悪いイメージを持っている方もいるかもしれません。しかし土木は私たちの暮らしを支えるインフラを築き上げている、なくてはならないものです。本書はそんな土木の魅力を伝えるべく編まれた一冊です。その中でも特に地下トンネルにスポットをあてています。とりわけ地下トンネルの写真が多く収められているのが本書の特徴といえるでしょう。モノクロで表現されたトンネルは妖しげな美しささえ湛えています。特にシールドマシンで掘られた円形の断面を持つトンネルが、等間隔に配置された明かりの生み出す光と影の中、緩やかなカーブの奥へ線路を飲み込んでいく姿は不思議と心惹かれるものがあります。しかしマニア向けとも思える写真に比べて、解説の方は実に平易に地下トンネルについて語ってくれますので心配は要りません。地下トンネルの掘削方法（前述のシールドマシンについてもちゃんと解説があります）をはじめ、地下トンネル内の構造物のあれこれ、地下鉄のしくみなどについてもよくわかります。巻末には、青山士やヨハネス・デ・レーケといった偉大な土木技術者たちの紹介ページもあります。一見するとトンネルマニア向けの本のようですが、著者たちの土木への愛着と、その魅力を若い世代を含む多くの人に伝えたいという思いも十分に伝わってきます。（副隊長）

◆2000円・185mm×260mm判・70頁・**共同文化社**・北海道・202011刊・ISBN9784877393458

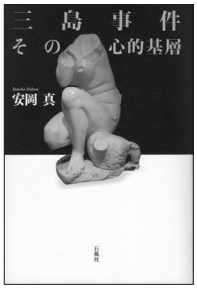
『秋田・ムラはどうなる』●佐藤晃之輔著

わが国は人口減時代になって久しいが、特に秋田県の人口減少率は著しく、平成29年には100万人の大台を切った。近年60年間の県の人口と小学校児童数は、人口が30％減（135万人→96万人）なのに対し、児童数は80％減（22万人→4万人）にもなるという。戦後からエネルギー革命の頃まで、秋田県に限らず、日本の農山村（ムラ）にはたくさんの人々が暮らしていた。それは暮らしを維持できる「農業」「林業」といった生業があったからだ。政府は「地方創成」を旗印として、さまざまな政策を進めているが、期待に応えるような成果はあがっていない。それはなぜなのだろうか。著者は秋田県内103の地区をくまなく訪ね、昭和30年代と今の人口、小学校児童数を比較し、「この地区がどうなっていくのか」、読者に投げかけている。そして「働く場の創出なくして、ムラの再生はない」と結んでいる。安定した暮らしを続けるためには生業が必要だ。「伝統行事の復活やイベントの開催は対症療法、働く場の創出こそが根本的治療」、まさにその通りである。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、人の密集の回避、テレワークの推進など、今後時代は大きく動くことになる。これまで都市部に集約し続けた人口が地方へ拡散し、そこで仕事を続けることが現実的な選択肢として浮上してきた。秋田の農山村は、人口減時代の日本の将来を考えるにあたっての先進的な事例を産みやすいかもしれない。（HEYANEKO）

◆1800円・四六判・246頁・**秋田文化出版**・秋田・202012刊・ISBN9784870225947

『三島事件その心的基層』●安岡真著



作家、三島由紀夫が私兵部隊、楯の会の会員４名と共に陸上自衛隊市ケ谷駐屯地を訪れ、憲法改正のため自衛隊の決起を呼びかけた後に切腹自害した衝撃的な「三島事件」。昨年は事件後50年の節目の年として関連書籍刊行やイベント、雑誌の特集が数多く組まれた。

翻訳家・文芸評論家で現在東京国際大学准教授である著者は事件当時14歳。生まれて初めて「他者」の心を目の前に突きつけられ、評論と解釈を鋭く要求する存在として印象づけられたと言う。

1944年９月、学習院高等科を首席で卒業した三島は文科総代として宮中に参代し、昭和天皇から銀時計を拝受する。しかし、その後の入隊検査で風邪気味だったところを肺湿潤と誤診され、即日帰郷を命じられて「天皇」と「軍隊」という２つのコンプレックスを抱え込むことになる。代表作「金閣寺」で燃え落ちる寺を旧陸軍の幻像とみなし、軍隊としてよみがえってもらいたいという願望を示し、「豊饒の海」第２巻「奔馬」で事件のシナリオを描き出す。世界周遊旅行先のローマで見た「聖セバスチャンの殉教」図に憧れ、本書の表紙カバーに写る原形をとどめぬほど壊れた彫刻「母のヴィナス」像（著者撮影）をも絶賛する三島は対象の中に死＝崩壊を見て、それを美しいと感じる傾向があった。

死して再生するという自己救済こそが事件の真因とする著者。事件を読み解くことにより、現代に“転生”した三島をあぶり出す。（Y）

◆2500円・四六判・332頁・**石風社**・福岡・202011刊・ISBN9784883442980

『惟喬親王伝説を旅する』●中島伸男著

惟喬親王は文徳天皇第一皇子として承和十一年（八四四）に生まれた。しかし、当時の権勢争いの渦中に投げ込まれ、二十九歳で出家後、比叡山麓の小野郷（左京区大原上野町鞍馬二ノ瀬町、北区雲ヶ畑町、大森東町など）で隠棲し、世間的な栄枯盛衰の圏外で生きることになったとされる。歴史上実在した人物であるはずだが、出家後の足跡が記録に乏しく、没年も諸説あるようだ。そのため、悲劇的な生涯と相俟って各地に様々な惟喬親王伝説が生まれ息づくことになった。

本書は、その惟喬親王伝説を京都、滋賀を中心に各地に訪ね収集記録した集大成である。今に伝わるそれら伝説のうち代表的なものが惟喬親王木地師祖神伝説であろう。権勢争いに巻き込まれて京都から落ち延びた惟喬親王は近江の小椋谷に隠棲し、ある時経巻が軸の紐を引くとくるくる回ったのを見て轆轤を考案した。そして村人たちに挽物（木の器など）の作り方を伝授した…東近江小椋谷に生まれたこの伝説は江戸初期から広く全国の木地師の間で伝播していった。本書では様々なバリエーションをもつこの木地師祖神伝説を遠く神奈川や福島までたずね渉猟している。

一方で著者は、親王の隠棲地であるとされる京都小野郷においては、このような惟喬親王木地師祖神伝説は見当たらないという。その辺りでは親王はあくまでも、皇位継承の望みを絶たれ遁世、隠棲の生涯を送った悲劇的な貴人といった像になっている。親王伝説にみられるこの二つの流れを頭に入れて本書を読むとても興味深いものとなるだろう。（N）

◆3500円・Ｂ５判・379頁・**サンライズ出版**・滋賀・202012刊・ISBN9784883257089

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2020年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**Ｓ－ｓｔｙｌｅ**　０１　ｖｏｌ．６７３　プレスアート編　298mm×232mm　152頁　４５０円　プレスアート［宮城］　978-4-503-22231-2　21/01

◆**会津人群像**　Ｎｏ．４１　阿部　隆一編　Ｂ５　188頁　１５００円　歴史春秋社［福島］　978-4-89757-979-5　21/01

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４９２　２０２０年１２月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-909864-24-6　20/12

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．９５　２０２０年１１月号　やどかり出版編　Ｂ５　64頁　１２００円　やどかり出版［埼玉］　978-4-503-22221-3　20/11

◆**ほほづゑ**　第１０７号　長谷川　智恵子編　Ａ５　131頁　５５６円　三好企画［千葉］　978-4-908287-34-3　21/01

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．６０７　２０２０年１１月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　105頁　３２７円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0817-2　20/11

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．２０９　２０２１年２月号　上條　昌宏編　297mm×225mm　128頁　１６３６円　アクシス［東京］　978-4-503-22229-9　21/02

◆**民俗芸能研究**　第６９号　民俗芸能学会編集委員会編　Ａ５　136頁　１５００円　岩田書

新刊ダイジェスト《拡大版》

『不知火海民衆史　上　論説篇』
●色川大吉著

豊かな海を奪われた怒りと、病と差別に苦しむ漁民の魂の声をつづった不朽の名作『苦海浄土－わが水俣病』（講談社　1969）の著者石牟礼道子が亡くなって3年が経つ。新日本窒素肥料株式会社（チッソ）が排出し続けてきたメチル水銀が原因と、1956年に公式確認され、公害の原点といわれる水俣病。この本なくして世に正しく知られることはなかったであろう。1978年からおよそ10年間、当時50代で東京経済大学で日本史担当の教授であった著者は、石牟礼に懇望され、不知火海総合学術調査団長として全身を投じた。副団長は民俗学の鶴見和子、ほかに哲学の市井三郎、宗教学の宗像巌、経済学の小島麗逸、民俗学の桜井徳太郎ら錚々たるメンバーが集まった。この画期的な共同研究の成果は、1983年に著者編で、『水俣の啓示－不知火海総合調査報告』上・下（筑摩書房）にまとめられた。

本書上下2冊はそれを補完するものとして編まれたものである。上は、著者が学術調査の一環として発表した数多くの論考の中から、現在では一般に閲読が困難な東京経済大学の紀要や『季刊不知火』などに発表した、「不知火海漁民暴動」(1)(2)、「近現代の二重の城下町水俣－その都市空間と生活の変貌」、「公害都市水俣における人間と自然の共生の問題－汚染海域の環境復元と患者の現況及び環境教育について」、「新しい村へ－足尾→秩父→三里塚→水俣」、「不知火海総合調査三年目の夏に」、「鶴見和子と水俣」と、それ以前に書き下ろした「「支援」ということ」の7点の論考を収録する。「不知火海漁民暴動」は、1959年に漁民2000人余がチッソ水俣工場に乱入した歴史的事件の経過と意義を、裁判資料や漁民の証言をもとに追ったものである。暴動はチッソと国の責任を白日にさらし、それまでの矛盾を一気にさらけ出した一方で、漁民を差別疎外していく構造も作った。漁民大衆の怒りを組織化できなかった運動の不備を指摘する。「鶴見和子と水俣」は短文ながら、鶴見の愛すべき人柄と共に、報告書を巡る座談会での鶴見の厳しい自省と水俣の人たちに対する憂慮が記され、胸を衝かれる。

それから40年余が経ち、著者は95歳になったが、今も歴史家として社会に厳しい目を向け、警鐘を鳴らし続けている。この浩瀚な2冊は、水俣に通いつめた日々が朽ちない価値を持っているとの思いから自費出版したものである。敬服するほかはない。（飯澤文夫）

◆2400円・A5判・298頁・**揺籃社**・東京・202010刊・ISBN9784897084336

＊

『不知火海民衆史　下　聞き書き篇』
●色川大吉著

不知火海総合学術調査で著者は、水俣病裁判原告団長や土地の名家の当主、患者とその家族、当時の町議会議員、漁師などから繰り返し聞き取りし、多くを羽賀しげ子との共同執筆で東京経済大学の紀要に発表した。本書は羽賀がまとめた『不知火記－海辺の聞き書』（新曜社　1985）を主体に、2012年と20年に社会学者桜井厚が著者にインタビューした「不知火海総合学術調査団のころ－色川大吉聞き書」を付している。『不知火記』は現在は絶版で入手しにくいことから、初出掲載の紀要から原初の形のまま収録している。

著者による聞き書は、「熊本水俣病裁判原告団代表　渡辺栄蔵翁の記録」(1)(2)、「創生期の水俣－前田千百聞き書」（羽賀と共同執筆）、「明治・大正の水俣－前田千百聞き書」（同前）、「獅子島にて－湯元クサノ聞き書」（同前）、「女島にて－井川太二聞き書」（同前）、「きれぎれの思い出－杉本栄子聞き書」（同前）、「御所浦島にて－白倉幸男聞き書」（同前）、「漁師八十年－下田善五聞き書」（最首悟、羽賀と共同執筆）の9点である。1979年の調査の折には、「水俣の図」を描くために取材中の丸木位里・俊夫妻の来訪を受ける。水俣について余りの無知識にあきれながらも、石牟礼家に案内し、渡辺栄蔵や、水俣一陽気な患者で、「水俣病患者の魂の陰影を言語化できるシャーマン的女性」杉本栄子の聞き取りに誘う。この時の丸木夫妻の発言も記録されていて興味深い。湯元クサノが住む獅子島は、不知火海を挟んで水俣の対岸にある鹿児島県の小島である。そこで最初の認定患者となった湯元は、患者として疎まれ、僅かな見舞金に羨望の目を向けられる。病の辛さと差別・中傷へのやり切れぬ悔しさを著者はこまやかにすくい取る。

聞き書は、自ら表現しない人、できない人の歴史を紡ぐ有効な方法である。著者はインタビューで、聞き書は文献での確認作業を要する補助資料ではあるが、「実感として、魂として、一番大事なものは聞く相手との魂の交流です。」と述べている。民衆史という新しいジャンルを打ち立てた著者の真髄に触れる言葉だ。話者との魂の交流が成立した時、聞き書きはこんなにも豊かなものになるのかと感動する。著者が問うた近代化の意味を考え直せば、「水俣」はまだ終わっていない。

（飯澤文夫）

◆2600円・A5判・350頁・**揺籃社**・東京・202010刊・ISBN9784897084343

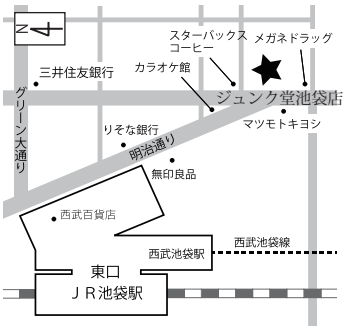
ジュンク堂書店
淳久堂書店

池袋本店
営業時間：月～土 / 午前10時～午後11時
日・祝 / 午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

９階「ふるさとの棚」では、
地方・小出版流通センター扱いの
ご当地本を幅広く取り揃え、皆様の
お越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp



売行良好書

期間：2020年12月15日～2021年1月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『夏がとまらない』1000円・ナナロク社　(2)『シルビア・ブラウンが視た世界の終わり』1700円・東京創作出版　(3)『九州喫茶案内』1600円・書肆侃侃房　(4)『医者、用水路を拓く』1800円・石風社　(5)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』800円・リーブル出版　(6)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(7)『安芸の城館』2000円・ハーベスト出版　(8)『森林浴』1900円・まむかいブックスギャラリー　(9)『わたしは読書ボランティア』1500円・忘羊社　(10)『Ｂｏｎ　Ｖｏｙａｇｅ！世界に恋する旅時間』1800円・書肆侃侃房　(11)『農泊のススメ』1700円・弦書房　(12)『現代語訳　上井覚兼日記』1800円・ヒムカ出版　(13)『幻のえにし』2200円・弦書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５４』909円・昭和プロレス研究室　(2)『不思議の国のアリス・オリジナル』2000円・書籍情報社　(3)『おすすめ文庫王国２０２１』800円・本の雑誌社　(4)『天才による凡人のための短歌教室』1200円・ナナロク社　(5)『いざ！登る信濃の山城』2000円・信濃毎日新聞社　(6)『希望の一滴』1500円・西日本新聞社　(7)『フリースタイル　ｖｏｌ．４６』888円・フリースタイル　(8)『現代アメリカ文学ポップコーン大盛』1800円・書肆侃侃房　(9)『出雲と蘇我王国』2200円・大元出版　(10)『現代語訳 上井覚兼日記』1800円・ヒムカ出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『千夜曳獏』1800円・青磁社　(2)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(3)『仁徳や若タケル大君』2800円・大元出版　(4)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(5)『安芸の城館』2000円・ハーベスト出版　(6)『現代語訳　上井覚兼日記』1800円・ヒムカ出版　(7)『中国妖怪 鬼神図譜』3500円・中国書店（集広舎）　(8)『暗号技術を支える数学』2400円・弘前大学出版会　(9)『世界のひきこもり』1800円・寿郎社　(10)『九州喫茶案内』1600円・書肆侃侃房　(11)『光秀を追う』1600円・岐阜新聞社　(12)『明治三年　欧州視察団周遊記』1600円・歴史春秋社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼昨年に引き続き、ヤマト屋書店仙台三越店にて『**全国新聞社ふるさとブックフェア**』が開催予定とのことです。2021年２月５日（金）～３月８日（月）。ヤマト屋書店仙台三越店は仙台三越店の地下２階にあり、地元に密着した豊富な品揃え、在庫20万冊以上を有し、専門書も３万冊以上揃っているとのこと。同フェ開催は４回目になります。機会がありましたらお立ち寄りください。

▼今号巻頭レポートにて執筆していただいた元・独立行政法人水資源機構職員の古賀邦雄氏は、長年にわたり河川・湖沼関係文献を収集し、私設の「古賀河川図書館」を開設、その蔵書が昨年、久留米大学御井図書館寄贈され、図書館内に「古賀邦雄河川文庫」が開設されました。この「古賀邦雄河川文庫」開設を記念して11月にシンポジウム「中村哲先生の河川哲学を学ぶ集い」が開催されたとのこと、今回の巻頭レポートはこのシンポジウム開催を受けてのことでした。没後１年を過ぎた中村哲医師の用水路建設における技術的な側面に焦点を当てていただきました。ちなみにこのシンポジウムは主催：久留米大学比較文化研究所筑後川流域圏研究部会、共催：筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会で、以下のような内容でした。

○基調講演「中村哲先生の筑後川山田堰の検証について：国土交通省筑後川河川事務所所長・松木洋忠

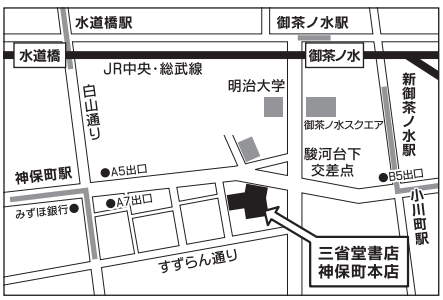
○基調講演「中村哲先生のアフガニスタンにおける水利開発システムに学ぶ」九州大学大学院教授・島谷幸宏

○話題提供「中村哲医師・アフガニスタン復興ゼロからの出発」ペシャワール会理事・徳永哲也

○座談会中村哲先生の河川哲学の業績として未来へむけて」

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。